

札幌市 砥石山 といしやま	標高 826.7 m
登り	2:30
山頂	0:40
下り	1:50
5:00	



△△ 砥石山〔小林峠コース〕△△

7月2日晴れ気温22度、メタボ隊員の札幌里山歩き第二段はランドマーク藻岩山に続き「砥石山」を目指しました。

低い雲が出足を遅らせ五輪通が混み始める頃真駒内公園、さけ科学館を横目に豊平川を跨いで藻岩山の裾野を縫うように急カーブを登り小林峠に到着、この峠を越えたところに藻

岩山への小林峠口がありますが今日はその手前から砥石山に向かいます。

峠の駐車場には5台ほどが並び、この時間にしては少ないかと思いつつ峠由来の石碑に目を通していると急に陽射しが強まり一気に気温が上昇し夏日になりました。

登山口の案内板を確認し赤い注意書きに眼をやると2週間ほど前に都会育ちの熊がお出ましの様子、安全祈願のお札が付いた鈴をぶら下げることにしますが、田舎の熊には効果があり未だ遭遇したことはありませんが果たして都会育ちには通用するのか不安が残ります。

入口の階段からまもなくのキツイ登りで早くもご年配に追い越され、木陰の山道も徐々に気温が上昇しアップダウンを繰り返す尾根道に少々バテ気味、何気なく目をやった道端のピンクリボンに思わず「マジっすかぁ〜」と叫びたくなるほど新鮮な爪痕発見、帰りたくなる気持ちを振り払うように鈴を鳴らして前進すると中ノ沢コースとの合流T4分岐に到着。

ここから徐々に登りがキツくなり、さらに気温の上昇が追い討ちをかけ、視界の効かない山道を黙々と進むと三角山(705m)への小さな看板、ここは帰りに取って置き山腹を横切って砥石山とのコルに出ると突然木陰が途切れ真っ青な空から痛いほどの陽射しに足を早め次の木陰へと逃げ込み、しばらく呼吸を整えまたカメの歩みを進めると、木々の間から見える藤野方面の街並みで高度が上がっていることが確認できます。

標高だけで甘く見ていた反省と帰りのアップダウンを考えると足取りがどんどん重くなるところで山頂に到着、追い越して行ったご年配や子供を背負った家族連れ、反対側の砥石沢コースからの一団など10人ほどが先着していました。

山頂は期待に反して木立に囲まれパノラマは望めませんが、手稲山や札幌岳、無意根山を垣間見ることができ、長めの休憩をとって下りは快調に三角山も一気に登り、勢い余って地面にころがる山頂標識を見過ごし下りかけて気がつきましたが周りは木だけで視界の悪さにガックリ。

気を取り直し下りはじめるとアップダウンがこの後ジャブのように効いてきて体力を奪い、最後はヨレヨレ状態で峠の登山口に到着、このとき温度計は28度に達していました。

都会の熊にも効果のあるお札と鈴で無事に帰ることができましたが、侮れぬ砥石山、事前の情報収集の甘さを大いに反省しました。

